リーディングDXスクール事業 【実践事例】

紫波町立紫波第二中学校【指定校】

【取組内容】子供を主語にした学びを実現するための「学びの視点５（ファイブ）」①

児童生徒と視点を共有

小１・２年

学びの視点5

みつけよう！
1. 「もっとしりたい」「なぜだろう」
2. がくしゅうのほうほうや すすめかた
3. 「いいな」「まねしたい」

できるようになろう！
4. しらべる ・ かんがえる ・ つたえる
5. ふりかえり ・ つぎへの みとおし

小３・４年

学びの視点5

1. 友達や先生との話して「もっと知りたい」、「なぜだろう」を見つけよう。
2. 自分で学習の方法や進め方を考えて学習しよう。
3. 友達の考えのいいなと思う所や、まねしたいなと思う所を見つけよう。
4. 本やタブレットで知りたいことを調べたり、自分の考えを伝えたりできるようになろう。
5. 学んだことを振り返り、次の学習の見通しをもとう。

小５・６年，中１年

学びの視点5

1. 友達や先生との対話や今まで学んだことを基に自ら課題を見つけよう。
2. 自ら学習の方法や進め方を考えて学習しよう。
3. 友達との学びから、自分の考えを広げ、深めよう。
4. 情報活用能力を発揮し、教科の学びを深めよう。
5. 学んだことを振り返り、次の学習の見通しをもとう。

中２・３年

学びの視点5

1. 友達や先生との対話、学習経験を基に、自ら課題を見つけよう。
2. 自ら学習の方法や進め方を考えて学習しよう。
3. 友達との学びから、自分の考えを広げ、深めよう。
4. 情報活用能力を発揮し、教科の学びを深めよう。
5. 課題解決の過程や学習の成果を振り返り、次の学習の見通しをもとう。

授業づくりの視点は，児童生徒の発達段階に応じた言葉に置き換え**「学びの視点５」**として各教室に掲示。教師にとっては「授業づくりの視点」，児童生徒のとっては「学びの視点」とし，子供と教師で目指す姿を共有しながら学習を進めている。

児童の学びへ向かう意識も変化

過去に学習した内容を思い出して，自力で答えを導き出せたときに授業が楽しいと感じます。タブレット端末のよさは，意見を話すのが苦手な人でも，自分の考えを示すことができるところ。自分とは違う考えを知ることができて，考えを深めることができます。

個人それぞれの課題に合った使い方をしたり，それぞれの調べたい分野を自由に調べたりすることにタブレットを使っています。

情報活用能力を身に付け，主体的に取り組みながら学びを深めています。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

紫波町立紫波第二中学校【指定校】

【取組内容】 子供を主語にした学びを実現するための「学びの視点５（ファイブ）」②

教師が目指す授業づくりの視点

①子供は友達や先生との対話，学習経験を基に，主体的に学習課題を見出すことができる
②子供は自己調整をしながら，主体的に課題解決に取り組むことができる
③子供は友達との学びから，自分の考えを広めたり，深めたりすることができる
④子供は情報活用能力を発揮し，教科の学びを深めることができる
⑤子供は課題解決の過程や学習の成果を自覚することができる

ICT機器の効果的活用

・一斉学習　・個別学習　・協働学習

授業観の転換と授業の改善

・課題解決型授業(PBL)の視点
・「複線型授業」の視点
・諸調査結果の分析
・学びの視点５

情報活用能力の育成

・情報活用能力体系表の活用
・合同研究会を通した実践共有
・情報活用能力チェック表による成果と課題の共有

本校では，「子供たちは学びをどのように捉えているのか」を大切にした授業への転換を図るため，上記のような５つの授業づくりの視点を設定し，日々の授業改善に取り組んできた。「ICT機器の効果的活用」「情報活用能力の育成」「授業観の転換と授業の改善」を手立てとし，一人一台端末の環境を生かしながら，子供が主語となる授業づくりを目指している。